

仏教的世界把握の図解 星研良
親鸞の述語と中観・唯識概念の摺り合わせ

本願成就の土。
真仏土。
慧：戲論寂滅の吉祥
慧を本体とし智によって捉えられた世界。
本願海。

本願作用の土。
分別戲論の世界。
識によって捉えられた世界。
記述上の法蔵・阿弥陀は戲論表現である。

土 = 器世間 + 衆生世間

報土 (一世界論)

化土 (二世界論)

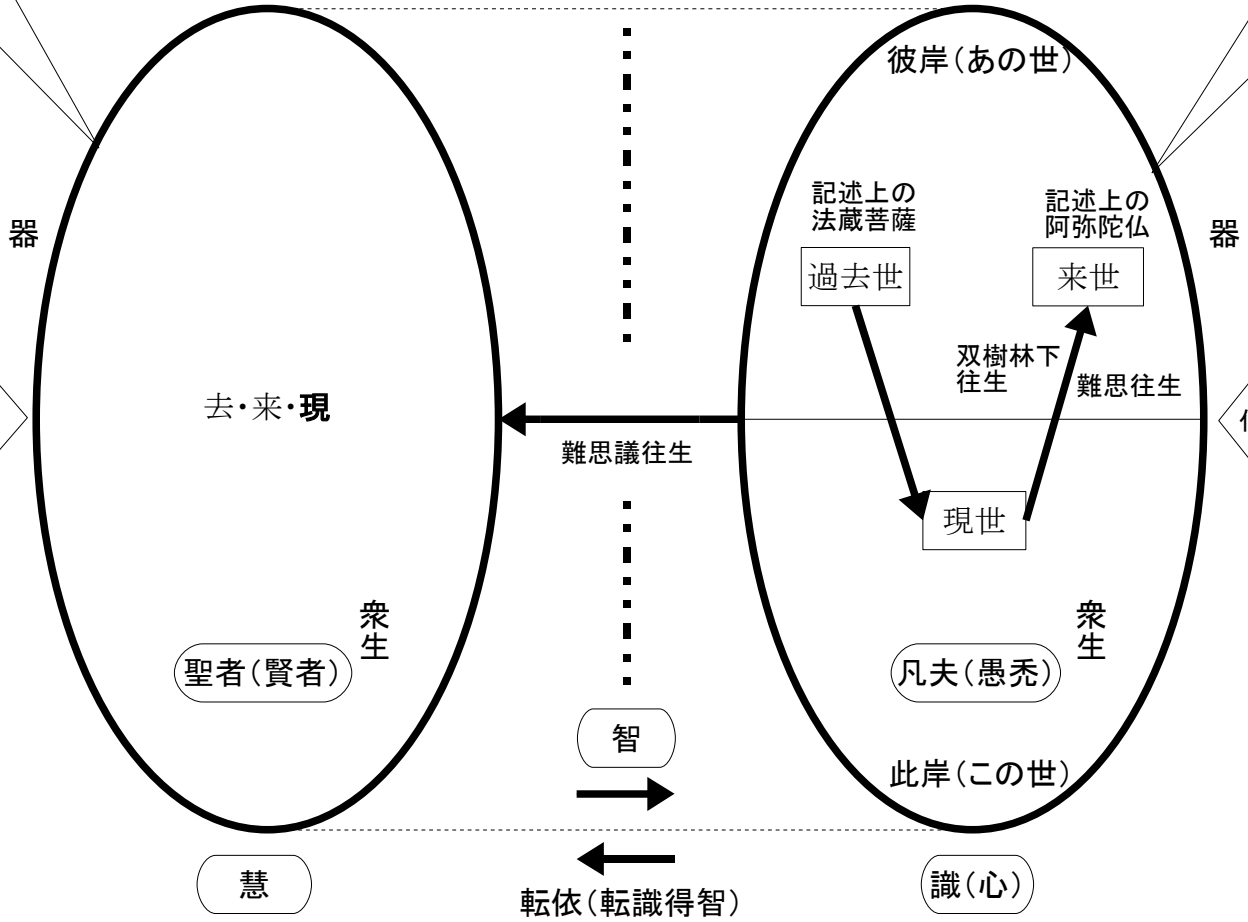
円の二重構造が見える。
報土は完全円満なものとして、また化土は報土に包含されるものとして一致して重なり合う。

円の二重構造は見えない。
化土のみが実体化され、土はあの世とこの世の二つに分割される。

近代以前：あの世、この世を前提とした宗教的・因習的世界観。輪廻思想。

近代以後：現世を主としあの世を従、あるいは無視する世界観。(しかし主体、客体として分別する以上無視できない。)

人は縁起の理法に通達し吉祥を得ないかぎり二世世界論を離れられない。



報土の視点

化土の視点

智

→

←

転依(転識得智)

慧

識(心)